地方や小都市における障がい者への公共交通機関利用支援

概要報告

既存の公共交通機関の利用促進戦略

交通手段の数が限られる場合や資金の制約で十分な支援が提供できない状況において、既存の公共交通機関を有効利用することは障がい者とサービス提供者の両者にとって大きな関心事である。公共交通機関は最もコストの低い移動手段であるが、もともと障がい者の利用を想定した設計にはなっていないという点をどう改良して障がい者の移動ニーズに適応させるかが焦点となる。路線バスの場合では、次の点が整備されれば障がい者にとってより利用しやすいサービスが実現できると考えられる。

(1)：バスを自力で安全に利用する訓練を受けられること

(2)：運賃の優遇があること

(3)：路線バスサービスの情報を容易に取得できること

特に複数の移動手段がある地域では、どんな交通手段が利用可能であるかについて十分な情報が容易に得られることが、公共交通機関を利用する障がい者にとって重要である。

公共交通機関の利用訓練

適切な訓練が提供されれば、障がい者は公共交通機関を自力で安全に利用する能力を身に付けることができ、最低限の移動については他者の助けを借りずにこなせるようになる。このような訓練プログラムを実施することで、障がい者向けに特化したコスト負荷の高い移動サービスの利用を縮小できるだけでなく、障がい者の自立を促し、既存の公共交通機関のみで障がい者の移動ニーズを満たせるようになる効果が期待される。

障がいの程度や移動ニーズによって、受けるべき訓練の内容は個々人に固有なルートを想定したものからより一般的な訓練まで多岐にわたる。訓練は講師と障がい者の一対一で行われることもあれば、同様なニーズを持つ対象者を集めたグループを一人の講師が教えることもある。講師役となる人にも様々なケースがあり、専門に職業として行っている人、訓練技法の講習を受けた一般人、または訓練生ですでに公共交通機関を利用した経験の持つ障がい者自身が務めることがある。

移動訓練プログラムの成功事例

アクセス・イン・アメリカ： Lane Transit District、 オレゴン州

Lane Transit District (LTD)は、非営利団体である Alternative Work Concepts (AWC) と契約を結び、障がい者への公共交通機関利用訓練を提供するとともに「トラベルホスト」サービスを展開している。AWCは障がい者の職業斡旋事業の一環として長年にわたり公共交通機関の利用訓練を行っており、LTDによる資金援助によってさらにその活動を拡大している。

LTDとAWCはこれまでにも、障がい者のあらゆる移動ニーズに対する訓練サービスを開発してきた。特定の目的地・ルートに特化した個々人のニーズに対する移動訓練サービスをAWCは展開しているほか、路線バスを使ったことの無い人や、リフトやランプなど障がい者向けシステムの利用方法教育が必要な人に対する一般的な「適応訓練」も実施している。障がい者の移動支援を行うスペシャリストを抱える各地方の機関・団体ともAWCは継続的に協業関係を築いており、視覚に障害を持つ人でさえも路線バスを利用する訓練が受けられる幅広い体制を整えている。

LTDが支援する訓練プログラムで特徴的なのは「トラベルホスト」サービスである。このサービスはバスを乗り継いで移動することが困難な障がい者を対象に開発されている。特にユージーン市周辺でほとんどのバスは大都市の拠点間を往復する路線を走るため乗換えが頻繁に発生する問題がある。現在２人のパートタイム「トラベルホスト」がユージーンバスセンターに配置されて、障がい者を対象に乗換え場所の案内や移動を支援する活動を行っている。